



2023年6月15日

各 位

会 社 名 楽天銀行株式会社
 代表者名 代表取締役社長 永井 啓之
 (コード：5838、東証プライム市場)
 問合せ先 企画本部担当役員 水口 直毅
 (TEL 050-5581-6120)

〔訂正・数値データ訂正〕「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」

2023年5月10日に開示しました「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」につきまして、訂正がありましたのでお知らせします。

なお、訂正箇所には下線を付して表示しております。

記

1. 訂正の理由

「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」提出後の有価証券報告書の作成過程におきまして、決算短信の記載内容の一部に誤りがあることが判明したため、提出後の決算短信を訂正させていただくものであります。

なお、今回の訂正による連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結株主資本等変動計算書への影響はありません。また、楽天グループ株式会社の「2023年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）」への影響もありません。

2. 訂正箇所

「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」【サマリー】

(訂正前)

1. 2023年3月期の連結業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	581,695	<u>△180,578</u>	—	4,050,224
2022年3月期	1,461,945	<u>△495,980</u>	—	3,649,133

(訂正後)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	594,695	<u>△193,578</u>	—	4,050,224
2022年3月期	1,461,945	<u>△495,980</u>	—	3,649,133

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

3. 連結財務諸表及び主な注記

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(訂正前)

(1) 当期の経営成績の概況

(前略)

一方、連結経常費用は、816億99百万円となり、前連結会計年度比35億82百万円増加（前連結会計年度比4.5%増加）しました。経常費用の中では、資金調達費用が、預金残高の伸長に伴い、前連結会計年度比15億64百万円増（同30.8%増）の66億32百万円となりました。役員取引等費用は、カードローンの支払保証料の減少により、前連結会計年度比15億51百万円減（同4.4%減）の332億78百万円となりました。また、営業経費は、業務委託費及びマーケティング関連費等の増加により、前連結会計年度比15億81百万円増（同4.2%増）の392億1百万円となりました。楽天国際商業銀行股份有限公司においては、前連結会計年度比11億57百万円増（同68.2%増）の43億66百万円の経常費用を計上しました。

(後略)

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローについては、営業活動によるキャッシュ・フローが、貸出金の増加による8,368億33百万円の支出、債券貸借取引支払保証金の増加による1,817億65百万円の支出、買入金銭債権の増加による4,490億37百万円の支出等があった一方、預金の増加による1兆4,010億26百万円の収入等があったことから、5,816億95百万円の収入（前連結会計年度比8,802億49百万円の収入減少）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却による1,903億67百万円の収入、有価証券の償還による2,291億90百万円の収入等があった一方、有価証券の取得による5,922億25百万円の支出等があったことから、1,805億78百万円の支出（前連結会計年度比3,154億2百万円の支出減少）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末比4,010億91百万円増加し、4兆502億24百万円となりました。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	27,907	38,746
減価償却費	3,914	4,503
のれん償却額	35	35
貸倒引当金の増減(△)	△234	931
賞与引当金の増減額(△は減少)	25	65
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	1	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	350	253
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△237	—
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△24	8
資金運用収益	△59,810	△69,010
資金調達費用	5,067	6,632
有価証券関係損益(△)	△187	△33
固定資産処分損益(△は益)	1	0
貸出金の純増(△)減	△1,048,163	△836,833
預金の純増減(△)	2,036,095	1,401,026
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	—	3,962
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	948,800	665,400
コールローン等の純増(△)減	△10,261	3,804
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	△298,371	△181,765
コールマネー等の純増減(△)	—	12,237
外国為替(資産)の純増(△)減	△1,129	△1,261
外国為替(負債)の純増減(△)	2,435	△361
買入金銭債権の純増(△)減	△154,558	△449,037
権利金保証金の純増(△)減	△20,525	△54,980
資金運用による収入	60,571	56,500
資金調達による支出	△5,180	△6,353
その他	△15,105	△123
小計	1,471,416	594,346
法人税等の支払額	△9,471	△12,650
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,461,945	581,695
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△968,270	△592,225
有価証券の売却による収入	343,557	190,367
有価証券の償還による収入	134,172	229,190
有形固定資産の取得による支出	△770	△1,413
無形固定資産の取得による支出	△4,669	△6,396
その他	—	△100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△495,980	△180,578
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	199	△25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	966,163	401,091
現金及び現金同等物の期首残高	2,682,969	3,649,133
現金及び現金同等物の期末残高	3,649,133	4,050,224

(訂正後)

(1) 当期の経営成績の概況

(前略)

一方、連結経常費用は、816億99百万円となり、前連結会計年度比35億82百万円増加（前連結会計年度比4.5%増加）しました。経常費用の中では、資金調達費用が、預金残高の伸長に伴い、前連結会計年度比15億64百万円増（同30.8%増）の66億32百万円となりました。役員取引等費用は、カードローンの支払保証料の減少により、前連結会計年度比15億51百万円減（同4.4%減）の332億78百万円となりました。また、営業経費は、業務委託費及びマーケティング関連費等の増加により、前連結会計年度比15億81百万円増（同4.2%増）の392億1百万円となりました。楽天国際商業銀行股份有限公司においては、前連結会計年度比17億70百万円増（同68.2%増）の43億66百万円の経常費用を計上しました。

(後略)

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローについては、営業活動によるキャッシュ・フローが、貸出金の増加による8,368億33百万円の支出、債券貸借取引支払保証金の増加による1,817億65百万円の支出、買入金銭債権の増加による4,490億37百万円の支出等があった一方、預金の増加による1兆4,010億26百万円の収入等があったことから、5,946億95百万円の収入（前連結会計年度比8,672億49百万円の収入減少）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却による1,903億67百万円の収入、有価証券の償還による2,161億90百万円の収入等があった一方、有価証券の取得による5,922億25百万円の支出等があったことから、1,935億78百万円の支出（前連結会計年度比3,024億2百万円の支出減少）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末比4,010億91百万円増加し、4兆502億24百万円となりました。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	27,907	38,746
減価償却費	3,914	4,503
のれん償却額	35	35
貸倒引当金の増減(△)	△234	931
賞与引当金の増減額(△は減少)	25	65
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	1	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	350	253
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△237	—
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△24	8
資金運用収益	△59,810	△69,010
資金調達費用	5,067	6,632
有価証券関係損益(△)	△187	△33
固定資産処分損益(△は益)	1	0
貸出金の純増(△)減	△1,048,163	△836,833
預金の純増減(△)	2,036,095	1,401,026
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	—	3,962
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	948,800	665,400
コールローン等の純増(△)減	△10,261	3,804
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	△298,371	△181,765
コールマネー等の純増減(△)	—	12,237
外国為替(資産)の純増(△)減	△1,129	△1,261
外国為替(負債)の純増減(△)	2,435	△361
買入金銭債権の純増(△)減	△154,558	△449,037
権利金保証金の純増(△)減	△20,525	△54,980
資金運用による収入	60,571	69,500
資金調達による支出	△5,180	△6,353
その他	△15,105	△123
小計	1,471,416	607,346
法人税等の支払額	△9,471	△12,650
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,461,945	594,695
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△968,270	△592,225
有価証券の売却による収入	343,557	190,367
有価証券の償還による収入	134,172	216,190
有形固定資産の取得による支出	△770	△1,413
無形固定資産の取得による支出	△4,669	△6,396
その他	—	△100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△495,980	△193,578
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	199	△25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	966,163	401,091
現金及び現金同等物の期首残高	2,682,969	3,649,133
現金及び現金同等物の期末残高	3,649,133	4,050,224

以 上